



優勝 紅組 132 点  
白組 128 点

練習の成果が十分に発揮された、達成感が強く感じられた運動会！  
たくさんの感動をありがとう！

運動会当日の天候が心配される中、曇り空で、運動会はスタートしました。

子供たちは入場行進から閉会式まで、全ての演目・競技において、全力を尽くし、練習の成果が十分に発揮された、誰もが達成感の得られる、感動がたくさん詰まった素晴らしい大成功の運動会となりました。熱気にあふれ、途中、急遽、エアコンの効いた体育館で1時間ほど、休憩をはさむなど、当初の予定になかった行動もありましたが、落ち着いてその後も活動することができました。

運動会そのものについては、腕がしっかりと振れ、膝を高く上げた堂々とした入場行進から始まりました。開会式でも集中力を切らさず、立派な態度でのぞむことができました。

最初のプログラムであるラジオ体操第一では、準備運動の一環として、さらには、演技種目であるといった観点からも、しっかりと取り組むことができていました。

競技である100m走では、呼名された際に、大きな声で「ハイ！」と返事をし、一人一人がひたむきな走りでゴールを駆け抜けました。

小学生の演技種目である「ソーラン節」は、迫力ある曲でさっそうと入場、練習の成果を発揮し、漁師さんの心意気を伝えていました。

中学生男子の「集団行動演技」では、列の分散や交差などの難しい演技も見事に息をそろえて行動することができました。

クロスカントリーでは、今大会でも感染症対策のため、男子は、昨年度同様に3つのグループに分かれる分散スタートとなりましたが、完走を目指し、誰一人手を抜かず走り、男子も女子も見事、全員が完走することができました。

集団演技の最後を飾(かざ)る中学生女子のダンスは、軽快なリズムに乗り、生き生きと笑顔輝く踊りで、見る人に踊る楽しさと元気を届けてくれました。

最後の種目となった紅白対抗選抜リレーでは、選抜されたという心意気が強く感じられ、バトンに託(たく)した気持ちが走りに現われていて、躍動感あふれる走りに感激しました。

閉会式では、疲れを感じさせない集中力と達成感のある一人一人の顔が見られ、児童・生徒一人一人の成長や、頼もしさを感じることができました。

今年の運動会も、コロナ禍であり、取組の過程から、様々な感染症対策を行いました。子供たちは、我慢をしなければならないことが多く、大変でしたが、運動会を成功させるために、本当によく取り組みました。記憶に残る素晴らしい運動会になったのは、子供たちの全力の賜物(たまもの=大きな価値)です。

最後に、励まし、支え、最後まで応援してくださった学園の先生方をはじめ、お手伝いをしてくれた高等部の皆さん、関係の先生方に感謝申し上げます。